

《専門教育科目 専門応用科目》

科目名	幼小連携教育研究				
担当者氏名	飯島 仁美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	3年・春期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 専門応用-2 豊かな人間性の醸成 ○ 専門応用-3 コミュニケーション能力の向上 ○ 専門応用-4 発達の深い理解 ○ 専門応用-5 指導・保育の専門性			

《授業の概要》

幼児教育機関における学びと、小学校以降での学びを如何にしてスムーズに接続していくことができるかが、昨今の課題となっています。本授業では、幼児教育機関、小学校、双方の視点からこれらについて学んでいきます。6歳から7歳の子どもの姿をより詳しく理解することを通して、この時期の子どもにふさわしい関わり方についての知見を深めるとともに、幼・小双方における連携教育のカリキュラムの立て方も学んでいきます。

《授業の到達目標》

幼児期後半および、就学期の子どもの発達および学びの特性について理解できる。また、幼児教育機関におけるアプローチカリキュラムおよび、小学校におけるスタートカリキュラムについて深い理解を持つ。

《成績評価の方法》

授業内課題の提出状況と内容・・・30%、グループワーク・発表等における授業時の積極的な授業態度・・・20%、筆記試験・・・50%による総合的評価を行う

《テキスト》

なし（必要に応じて適宜配布）

《参考図書》

小学校指導要領（文科省 平成29年告示）、幼稚園教育要領（文科省 平成30年）、保育所保育指針（厚労省 平成30年）、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（文科省報告 平成22年）

《授業時間外学習》

予習・復習の方法および内容については授業内で指示

《備考（教員経験の有無）》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	授業内容、進め方、評価方法についての説明と、作業グループの決定及び小課題を実施する。
2	幼小連携教育とは何か？	幼小連携教育とは何を指すのか、必要とされる背景にはどのようなことがあるのか、関連する法制度は何かについて学ぶ。
3	幼児と小学生の違いを考える	発達の側面及び、保育者や教員による評価体系などの側面から、幼児と小学生の違いについて理解する。
4	園児（年長児）について考える	主に6歳児に見られる幼児期特有の姿や学び方、人間関係などについて学ぶ。
5	小学生（1年生）について考える	主に小学校1年生に見られる就学初期の姿や学び方、人間関係などについて学ぶ。
6	「新しい学力観」と幼小連携について考える	「非認知スキル」「新しい学力観」などの観点から、幼児期と小学校での学びの繋がりを考える。
7	「10の姿」の理解から始める幼小連携教育	幼児期の学びを体現する「10の姿」を手がかりに、低学年の終わりまでに育てたい姿についての見通しを持つ。
8	園におけるアプローチカリキュラムを知る①	園において行われているアプローチカリキュラムの概要を知る。
9	園におけるアプローチカリキュラムを知る②	アプローチカリキュラムの事例研究と作成方法について学ぶ。
10	園におけるアプローチカリキュラムを知る③	各グループで、実際に園におけるアプローチカリキュラムを作成し、発表の準備を行う。
11	園におけるアプローチカリキュラムを知る④	各グループで考えたアプローチカリキュラムを発表し、検討会を行う。
12	小学校におけるスタートカリキュラムを知る①	小学校におけるスタートカリキュラムの概要、事例研究及び作成方法について学ぶ。
13	小学校におけるスタートカリキュラムを知る②	各グループで、実際に小学校におけるスタートカリキュラムを作成し、発表の準備を行う。
14	小学校におけるスタートカリキュラムを知る③	各グループで考えたスタートカリキュラムを発表し、検討会を行う。
15	授業のまとめと演習	授業の振り返り及び、演習の実施